

貝印の知財変革：停滞から「攻めの経営」への転換



競争疲弊

貝印は、巨大外資系企業との価格競争による競争力を打破するため、2018年から知財戦略を経営の柱に据える「攻めの知財戦略」へと転換。知財部門が「企画の上流」から伴走し、独自の開発基準「DUPS3」を徹底することで、商品価値の最大化と組織の自信回復を成し遂げた。



知財部門が企画の「水先案内人」へ
開発の最後尾にいた知財部門が企画の最上流から参画し、全部門を繋ぐハブへと変貌。



組織・開発プロセスの
パラダイムシフト



独自開発基準
「DUPS3」の徹底
Design, Unique, Patent, Safety, Story, Sustainabilityの6要素を開発の必須条件に。



IPランドスケープによる
「心理的ゲームチェンジ」
競合分析で自社技術の優位性を可視化し、開発陣の自信と誇りを取り戻した。

知財を利益に変える
「商品価値化策®」



難解な特許を
「顧客価値」へ翻訳
特許情報を平易な図解にした「知財POP」を商設で活用し、競合を排除する。



知財が導いた
「紙力ミソリ」の成功
IP分析により「紙戴」の独自性を確信し、世界初の構造でヒットを記録した。



驚異的な特許活用率
80.6%
全国平均を大きく上回る水準で、獲得した権利を確実に収益化している。

知財活用の成果を数値で示す

項目	貝印の実績	全国平均/比較
特許活用率	80.6%	53.7%
商品価値化策®実績	250件以上	(2019年以降累計)
模倣品対策損害回避額	約4.8億円相当	(最近3年間の実績)